

大分県看護研究学会原稿選考基準

| 項 目 | 内 容 | |
|-----|------------|--|
| A | 表 題 | 1. 内容を適切に表現している |
| | 目 的 背 景 | 1. この研究により何を明らかにしようとしているかが明確である 2. 研究の動機、意義が明確である 3. 文献検討が適切である（先行研究も含めて） |
| | 方 法 | 1. 研究方法は、研究目的・目標達成のために妥当である 2. 対象は適切である 3. データ収集方法および手続き（手順）を示している 4. 分析方法は妥当である（測定用具の選択の妥当性・測定基準の信頼性） |
| | 結 果 | 1. 研究目的にそった分析・結果を示している（テーマと合致している） 2. 事実を客観的に示し、信頼性がある（考察と混在していない） 3. 図表の表現・体裁は適切である |
| | 考 察 | 1. 得られた結果に基づいた解釈をしている 2. 研究目的にそった考察で、論旨に一貫性がある 3. 関連する文献を適切に引用している |
| | 結 論 | 1. 本研究で明らかになったことを総合的にまとめている 2. 主張したい事項などを簡潔に明記している |
| B | 倫理的配慮 | 1. 対象者（または代諾者）から研究ならびに発表の承諾が得られている 2. 個人や対象集団が特定されないように配慮されている（研究期間から推察されることがない） 3. 対象者の不利益が生じないように配慮している（プライバシーの保護） 4. 倫理委員会等の倫理審査を受けたことが明記されている 5. 引用文献が明示されている 6. 既存の尺度等の使用について開発者から必要な使用許諾を得、出典が明示されている |
| C | 発表価値 | 1. 看護実践、看護活動に根ざした問題提起がある（政策提言の内容でも可） 2. 事例検討や実践報告でも、日常の看護実践の向上や改善に役立つ示唆が得られている 3. 看護実践に意味ある事実や知見がある 4. 看護学として意義ある内容か（新しい知見や重要な知見、有用性などがある） |

*研究倫理に問題があるものや選考基準を満たしていない場合は再提出となります。

2021年9月改訂